

[皮膚/耳 細菌検査] 獣医皮膚科専門医の監修のもと、正確な細菌検査を実施いたします。

検査名	皮膚細菌検査			外耳炎検査		
対象動物種	犬・猫・その他の動物種					
検査項目	細菌培養同定※1／薬剤感受性試験※2					
セット名	お手軽セット	基本セット	よくばりセット	基本セット		よくばりセット
				球菌が同定された場合	桿菌が同定された場合	球菌・桿菌ともに
抗 菌 薬 種 類	MPIPC AMPC/CVA CEX ERFX ST CLDM	お手軽セット ＋ CFV CPDX GM DOXY MINO CP	基本セット ＋ FOM FRPM MBFX LCM EM RFP	MPIPC AMPC/CVA CEX CFV CPDX IPM ERFX GM ST CLDM DOXY MINO CP	AMPC/CVA CEX CFV CPDX IPM ERFX OFLX OBFX GM ST DOXY CP	基本セット ＋ FOM FRPM FRM FF RFP LFLX
料金(税別)※3	¥3,000	¥4,500	¥6,000	¥4,500		¥6,000

※1：菌種によって属名での報告 ※2：ディスク拡散法/CLSIの基準に基づき表示 ※3：クール便を利用する場合、配送料は貴院負担

オプション検査 (料金は税別表示)

	基本セット	よくばりセット
皮膚+耳セット	¥7,500	¥9,000
皮膚+両耳セット	¥1,0000	¥12,000
両耳セット	¥7,500	¥9,000
追加薬剤	1薬剤につき+¥500 下表の抗菌薬から選択可能	
嫌気培養同定 感 受 性 試 験	+ ¥1,500(追加依頼のみ) 下記6薬剤の感受性試験のみ実施 ABPC, AMPC/CVA, CLDM, CTRX, MNZ, IPM (MIC値を報告)	

再検査 (料金は税別表示)

前回菌未検出 の場合	前回検出菌の確認検査の場合 (前回弊社で検査した検体対象)	
	菌消失	菌再検出
無 料	¥1,500	基本セット ¥4,500 よくばりセット ¥6,000※

※ 確認検査依頼時にどちらかを選択

犬膿皮症治療ガイドライン上の抗菌薬 (Andrew Hillier et al. Vet Dermatol 2014; 25: 163-e43 一部改変)

略語	抗 菌 薬 名	主 な 商 品 名	系 統	用 量 ・ 用 法	投 薬 経 路	備 考
CEX	セファレキシン	セファクリア、リレキシペット	第1世代セフェム系	15-30 mg/kg・BID	PO	一過性の嘔吐、食欲不振、軟便のリスク
AMPC/CVA	アモキシシリン/クラバン酸	オーグメンチン	ペニシリン系	12.5-25 mg/kg・BID	PO	ペニシリナーゼ産生菌に有効な可能性 アモキシシリンによる消化器症状のリスク
CLDM	クリンダマイシン	ダラシン	リンコマイシン系	5.5-10 mg/kg・BID	PO	エリスロマイシン耐性との遺伝的交差性
LCM	リンコマイシン	リンコシン		15-25 mg/kg BID	PO	
ST	ST合剤	トリブリッセン、パクタ		15-30 mg/kg・BID	PO	犬で乾性角結膜炎、肝疾患、過敏症などのリスク

CFV	セフォベシン	コンベニア	第3世代セフェム系	8 mg/kg・2週間に1回	SC	症状にあわせて14日ごとの投与が可能
CPDX	セフボドキシム	シンプリセフ		5-10 mg/kg・SID	PO	

MINO	ミノサイクリン	ミノベン、ミノマイシン	テトラサイクリン系	10 mg/kg・BID	PO	食物との同時投与で血中濃度が低下する可能性
DOXY	ドキシサイクリン	ビブラマイシン		5 mg/kg・BID	PO	消化器症状や猫での食道炎のリスク
CP	クロラムフェニコール	クロロマイセチン	クロラムフェニコール系	40-50 mg/kg・TID	PO	他に選択肢のない多剤耐性菌に推奨 嘔吐や骨髄抑制のリスク
ERFX	エンフロロキサシン	エンロクリア、バイトリル	ニューキノロン系	5-20 mg/kg・SID	PO	濃度依存性薬剤のため推奨用量内で最大量を投与 腎毒性や若齢動物での関節軟骨障害のリスク
MBFX	マルボフロキサシン	ゼナキル		2.75-5.5 mg/kg・SID	PO	
GM	ゲンタマイシン	ゲンタン注、オトマックス、モメタオティック	アミノグリコンド系	9-14 mg/kg・SID	IV, IM, SC	腎毒性と聴覚毒性のリスク
RFP	リファンピシン	アプテシン、リファジン		5-10 mg/kg・BID	PO	肝毒性や耐性発現のリスク

その他抗菌薬 (Muller&Kirk's Small Animal DERMATOLOGY 7th Edition、桃井 康行著 小動物の治療薬 一部改変)

略語	抗 菌 薬 名	主 な 商 品 名	系 統	用 量 ・ 用 法	投 薬 経 路	備 考
MPIPC	オキシサリン	ブドウ球菌において、オキシサリンに対する阻止円の大きさとmecA遺伝子保有の有無は相関性が高いとされております。 ブドウ球菌が検出された際に、オキシサリン検査を行います。				
FRPM	ファロベネム	ファロム	ベネム系	詳細な用量は未設定	PO	犬や猫での有効性や薬用量の詳細は不明
IPM	イミベネム	チエナム	カルバベネム系	2.5 mg/kg・1日3～4回	IV	感染症療法において極めて重要な抗菌薬 他に選択肢のない多剤耐性菌にのみ推奨
OFLX	オフロキサシン	ウェルメイト、タリビット、ミミビュア	ニューキノロン系	2.5-5 mg/kg・BID、外用	PO、塗布	濃度依存性薬剤のため推奨用量内で最大量を投与 腎毒性や若齢動物での関節軟骨障害のリスク
OBFX	オルビフロキサシン	ビクタスS		2.5 mg/kg・SID、外用	PO、塗布	
LFLX	ロメフロキサシン	ロメワン		外用	塗布	
EM	エリスロマイシン	エリスロシン	マクロライド系	15 mg/kg・TID	PO	クリンダマイシン耐性との遺伝的交差性
FOM	ホスホマイシン	ホスミシン		10-30 mg/kg・BID※1	PO	緑膿菌を除く多剤耐性菌に有効である可能性 腎毒性のリスク (特に猫への投与は禁忌)
FRM	硫酸フラジオマイシン	ドルバロン、ヒビクス	アミノグリコンド系	外用	塗布	動物に舐め取られた際の薬物有害反応リスク 鼓膜が確認されない動物での中耳・内耳毒性リスク (外用薬全般として)
FF	フロルフエニコール※2	オスルニア	チアンフェニコール系	外用	塗布	

※1：小児の用量から推定した参考値 ※2：感受性ディスク試験における基準未設定のための、参考値での報告

[尿/その他 細菌検査] これまでに培ったノウハウを活かし、正確な尿細菌検査を実施いたします。

検査名	尿細菌検査			その他の部位の検査 ※血液・髄液・便検体は除く	
対象動物種	犬・猫・その他の動物種				
検査項目	細菌培養同定※1／薬剤感受性試験※2			細菌培養同定※1／薬剤感受性試験※2	
セット名	基本セット		よくばりセット	基本セット	よくばりセット
	球菌が同定された場合	桿菌が同定された場合	球菌・桿菌ともに		
抗菌薬種類	MPIPC AMPC AMPC/CVA CEX CMZ CFV CPDX ERFX OBFX AMK ST CLDM DOXY	AMPC AMPC/CVA CEX CMZ CFV CPDX ERFX OBFX AMK ST DOXY CP	基本セット + FOM CTRX ABPC/SBT FRPM IPM MEPM	[尿 細菌検査]と同様の 抗菌薬セット内容で検査実施	
料金(税別)※3	¥4,500		¥6,000	¥4,500	¥6,000

※1：菌種によって属名での報告 ※2：ディスク拡散法/CLSIの基準に基づき表示 ※3：クール便を利用する場合、配送料は貴院負担

オプション検査 (料金は税別表示)

追 加 薬 剤	1薬剤につき+¥500 下表の抗菌薬から選択可能
嫌気培養同定 感 受 性 試 験	+ ¥1,500(追加依頼のみ) 下記6薬剤の感受性試験のみ実施 ABPC, AMPC/CVA, CLDM, CTRX, MNZ, IPM (MIC値を報告)

再検査

左ページを参照

犬と猫の尿路感染症で使用頻度の高い抗菌薬

(犬と猫の尿路感染症治療のための抗菌薬使用ガイドライン Weese JS et al. Vet Med Int 2011、桃井 康行著 小動物の治療薬 一部改変)

略語	抗 菌 薬 名	主 な 商 品 名	系 統	用 量 ・ 用 法	投 薬 経 路	備 考
MPIPC	オキシサリン	ブドウ球菌において、オキシサリンに対する阻止円の大きさとmecA遺伝子保有の有無は相関性が高いとされております。 メチシリン耐性ブドウ球菌に対してはβ-ラクタム系抗菌薬の使用を控える事が推奨されます。				
ABPC	アンピシリン	ピクシリン	ペニシリン系	10-30 mg/kg・1日2～3回	PO,IV,IM,SC	尿中への排泄率が高い
AMPC	アモキシシリン	アモキシクリア		10-20 mg/kg・1日2～3回	PO	尿中への排泄率が高い 消化器症状のリスク
AMPC/CVA	アモキシシリン/クラバン酸	オーグメンチン		10-20 mg/kg・1日2～3回	PO	ペニシリナーゼ産生菌に有効 消化器症状のリスク
ABPC/SBT	アンピシリン/スルバクタム	ユナシンS		20-30 mg/kg・TID※1	IV	ペニシリナーゼ産生菌に有効
PIPC/TAZ	ピペラシリン/タゾバクタム	ゾシン		50-100mg/kg・1日3～4回	IV	ペニシリナーゼ産生菌に有効 緑膿菌に対し抗菌力を示す可能性
CEX	セファレキシン	セファクリア、リレキシペット	第1世代セフェム系	10-20 mg/kg・BID	PO	腸球菌に対しては効果乏しい可能性
CMZ	セフメタゾール	セフメタゾン	第2世代セフェム系	15-20 mg/kg・1日3～4回※1	IV,IM	グラム陰性菌に対し強い抗菌力を持つ 腎障害のある動物には減量を考慮
CFV	セフォベシン	コンベニア	第3世代セフェム系	8mg/kg・2週間に1回	SC	経口投与が困難な症例に対しての限局的使用を推奨 腸球菌に対しては効果乏しい可能性
CPDX	セフボドキシム	シンプリセフ		5-10mg/kg・SID	PO	腸球菌に対しては効果乏しい可能性
CTRX	セフトリアキソン	ロセフィン		25 mg/kg・BID	IV,IM	
CTX	セフォタキシム	クラフオラン、セフォタックス		犬：22 mg/kg・TID 猫：20-80 mg/kg・TID	IV,IM,SC	グラム陰性菌に強い抗菌力を示す可能性
IPM	イミベネム	チエナム		2-5 mg/kg・1日3～4回	IV,IM	他に選択肢のない場合の多剤耐性菌に 適応検討
MEPM	メロベネム	メロペン	カルバベネム系	8,5 mg/kg・BID(SC)、TID(IV)		
ERFX	エンフロロキサシン	エンロクリア、バイトリル	ニューキノロン系	犬：5-20 mg/kg・SID 猫：2.5-5 mg/kg・SID	PO	前立腺炎に対して有効な可能性 濃度依存性薬剤のため推奨用量内で最大量を投与 腎毒性や若齢動物での関節軟骨障害のリスク
OBFX	オルビフロキサシン	ビクタスS		2.5-7.5 mg/kg・SID	PO	
AMK	アミカシン	ビクシン	アミノグリコンド系	犬：15-30 mg/kg・SID 猫：10-14 mg/kg・SID	IV,IM,SC	他に選択肢のない場合の多剤耐性菌に適応検討 腎毒性と耳毒性のリスク
TOB	トブラマイシン	トブラシン		2mg/kg・TID	IV,IM,SC、 塗布	他に選択肢のない場合の多剤耐性菌に適応検討 投与期間は犬では1週間、猫では5日間まで
ST	ST合剤	トリブリッセン、パクタ		15-30 mg/kg・BID	PO	前立腺炎に対して有効な可能性 犬で乾性角結膜炎、肝疾患、過敏症などのリスク
DOXY	ドキシサイクリン	ビブラマイシン	テトラサイクリン系	5-10 mg/kg・BID	PO	尿中への排泄率は低い可能性 日常的な使用には非推奨
CLDM	クリンダマイシン	ダラシン	リンコマイシン系	犬：12 mg/kg・BID 猫：5-10 mg/kg・BID	PO	エリスロマイシン耐性との 遺伝的交差性の可能性
CP	クロラムフェニコール	クロロマイセチン	クロラムフェニコール系	犬：45-60 mg/kg・TID 猫：50 mg/head・TID	IV,IM,SC PO	他に選択肢のない場合の多剤耐性菌に適応検討 嘔吐や骨髄抑制のリスク
FOM	ホスホマイシン	ホスミシン		10-30 mg/kg・BID※1	PO	緑膿菌を除く多剤耐性菌に効果を示す可能性 腎毒性のリスク (特に猫への投与は禁忌)
FRPM	ファロベネム	ファロム	ベネム系	詳細な用量は未設定	PO	犬や猫での有効性や薬用量の詳細は不明
EM	エリスロマイシン	エリスロシン	マクロライド系	10-20 mg/kg・TID	PO	クリンダマイシン耐性との遺伝的交差性の可能性
RFP	リファンピシン	アプテシン、リファジン		10-20 mg/kg・1日2～3回	PO	肝毒性のリスク
MNZ	メトロニダゾール	フラジール		犬:25 mg/kg・BID※2 猫:10-20 mg/kg・BID	PO	抗原虫薬だが嫌気性菌感染にも使用

※1小児の用量から推定した参考値 ※2ジアルジア症に対する用量